

# 助け合いの社会

兵庫県加古川市立神吉中学校三年三組

西岡 文音

人間はひとりでは生きていきません。ひとり暮らしの人や、山奥で自給自足をしている人も、決してひとりでは生きていくわけではありません。産まれた瞬間から自力で立って生きていくために必要な食べ物を自分で食べる

ことができない動物と違って、人間は誰かに助けられて生きていくことができません。生物学的に考えても、人間はひとりでは生きていけないことになっていくのです。そして、どんなに文明が発達してもそれは変わることがありません。

ずの人たちが納めてくれた税金によって生きてこられました。また、高齢者や障害者、病気などで生活に困っている人を助けているのも税金です。

でも、税金のおかげで生きていけるのは子どもや社会的な弱者ばかりではないことが分かりました。働いて自立して生きていくことができる大人も税金の恩恵にあずかっています。例えば、家のごみの処分です。私たちは自分で環境に優しい処理を自分で行うことができ

ません。市の収集車が決められた日にごみを取りに来てくれて、きちんと処分してくれています。道路や水道の整備も同じです。また、消防や警察など、安心して生活していくための制度にも税金が使われていることを知りました。ごみの収集も犯罪者の逮捕も個人個人が自分でしなければならなかったら大変なことになります。つまり、私たちの生活に絶対に必要なことに税金が使われ、みんなの暮らしを支えてくれていることが分かりま

した。

今、日本の国の税金は不足しています。このままでは社会を支えることができない状態です。税額が増えると好きな物が買えなくなったり、何かを我慢しなければならなくなることもあります。でも、税金が私たちの暮らしをいつも支えてくれていて、子どもを育てるから勉強し、なくてはならないものであることを知るということでみんなが納得していかなければならないと思います。私も将来、しっかりと働いて、育ててもらったり支えてもらったことをちゃんと税金を納めるという形で恩返しできるようにしたいです。